

平成30年度 事務事業評価表(事後評価)

I 基礎情報		事後評価	2018	2474_1			
事業名(行目名称)	地域おこし協力隊推進費	細事業名	地域おこし協力隊推進事業				
総合計画	フィールド	自立協働	施策	地域コミュニティの充実			
	基本計画	地域再生への体制づくり	担当課	別子山支所			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地域・人口	数値	150			
	手段(どうやって)	地域おこし協力隊員を3名採用し、別子山地域の自然を利用した魅力ある特産品からなる「別子山ブランド」を創出し、新たな移住者にも対応できる地域内の雇用先及び収入確保ができる事業の創出を通じて定住人口や交流人口の増加を図るため、地域おこし協力隊の活動費を行政が予算措置する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	人口減少及び少子高齢化の進行が著しい本市の別子山地域において、地域外の人材を積極的に誘い、地域おこし協力隊を設置し、地域力の維持及び強化並びに地域の活性化を図るとともに、その人材の定住及び定着を図る。					
III 投入費用							
実施年度	平成29年度決算額(千円)	平成30年度(千円)			平成30年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
		当初予算額	現執行額	決算額			
経費	6,951	11,544	—	5,755	報酬3名分7,200千円 共済費1,197千円 旅費273千円 需用費1,331千円 使用料及び賃借料(パソコン、公用車)1,097千円 ほか		
財源	県・国支出金	0	0	0			
	地方債	0	0	0			
	その他	0	0	0			
一般財源	6,951	11,544	—	5,755			
IV 指標							
成果指標名(計算式)		平成28年度	平成29年度	平成30年度中間値	平成30年度	平成31年度	
数	(任期終了した隊員)	目標値	0	1	3	3	3
		実績	0	2	2	2	—
V 事中評価							
評価視点	妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等	事業の方向	現状のまま維持する					
現在までに別子山地域に導入した地域おこし協力隊員は累計で4名となっており、3年間の任期を満了した3名の隊員のうち2名は引き続き地域に定住している。任期期間中は地域連合自治体が事業主体として実施している「別子山未来プロジェクト事業」への協力、地域内で開催される各種行事へも参加協力し、地域の活性化に貢献している。現在は1名の隊員であるが、11月から2名の新規隊員が赴任予定となっている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)	予算の方向	拡大					
地域連合自治会、別子山の未来を考える会からは、協力隊員を増員して欲しい旨の要望が強いため、31年度は4名分の予算を計上したい。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(平成30年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
30年度中は2名の新規隊員を加える予定であったが、辞退者が発生したことにより結果的に2名体制となった。各機関と連携を取りながら別子山地域の活性化に取り組み、定住に繋がるようバックアップしていく。							
事中評価	作成担当者	近藤 尚志	最終評価責任者	和田 隆宏			
事後評価	作成担当者	近藤 尚志	最終評価責任者	和田 隆宏			

平成30年度 事務事業評価表(事後評価)

I 基礎情報		事後評価	2018	2474.2			
事業名(行目名称)		地域おこし協力隊推進費	細事業名	地域おこし協力隊推進事業補助金			
総合計画	フィールド	自立協働	施策	地域コミュニティの充実			
	基本計画	地域再生への体制づくり	担当課	別子山支所			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	地域おこし協力隊		数値	3		
	手段(どうやって)	平成26年度から別子山地域において設置された地域おこし協力隊の市営住宅家賃を補助する。また、起業(開業、就農など)に際し要する経費の一部を補助する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	地域おこし協力隊の市営住宅家賃、起業に要する経費の一部を補助することにより、日常経費の負担を軽減する。					
III 投入費用							
実施年度		平成29年度決算額(千円)	平成30年度(千円)		平成30年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	現執行額		決算額	
経費		240	1,456	-	212		
財源	県・国支出金	0	0	-	0		
	地方債	0	0	-	0		
	その他	0	0	-	0		
	一般財源	240	1,456	-	212		
家賃補助3名分 456千円 起業支援補助金1,000千円							
IV 指標							
成果指標名(計算式)			平成28年度	平成29年度	平成30年度中間値	平成30年度	平成31年度
数	(任期終了した隊員)	目標値	0	1	3	3	3
		実績	0	2	2	2	-
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>現在までに別子山地域に導入した地域おこし協力隊員は累計で4名となっており、3年間の任期を満了した3名の隊員のうち2名は引き続き地域に定住している。任期期間中は地域連合自治体が事業主体として実施している「別子山未来プロジェクト事業」への協力、地域内で開催される各種行事へも参加協力し、地域の活性化に貢献している。現在は1名の隊員であるが、11月から2名の新規隊員が赴任予定となっている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
<p>地域連合自治会、別子山の未来を考える会からは、協力隊員を増員して欲しい旨の要望が強いため、31年度は4名分の予算を計上したい。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(平成30年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>30年度中は2名の新規隊員を加える予定であったが、辞退者が発生したことにより結果的に2名体制となった。各機関と連携を取りながら別子山地域の活性化に取り組み、定住に繋がるようバックアップしていく。</p>							
事中評価	作成担当者	近藤 尚志		最終評価責任者	和田 隆宏		
事後評価	作成担当者	近藤 尚志		最終評価責任者	和田 隆宏		

平成30年度 事務事業評価表(事後評価)

I 基礎情報		事後評価	2018	7193_1		
事業名(行目名称)	別子山未来プロジェクト事業費	細事業名	別子山未来プロジェクト事業補助金			
総合計画	フィールド	自立協働	施策	地域コミュニティの充実		
	基本計画	地域再生への体制づくり	担当課	別子山支所		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地域(別子校区連合自治会)		数値	150	
	手段(どうやって)	別子山REBORN未来プロジェクト事業継続のため、ランニングコストの一部補助				
	目的(どんな状態にしたいのか)	総務省交付金により平成26年度から開始した別子山REBORN未来プロジェクト(サトウカエダ育成事業・朝鮮人参栽培事業・媛っこ地鶏育成事業)の継続				
III 投入費用						
実施年度	平成29年度決算額(千円)	平成30年度(千円)			平成30年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
		当初予算額	現執行額	決算額		
経費	1,000	1,000	—	774	借地料60千円 媛っこ地鶏振興協議会費10千円 需用費(肥料、餌、消毒薬、種苗等)1,530千円	
財源	県・国支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	1,000	1,000	774		
	一般財源	0	0	0		
IV 指標						
成果指標名(計算式)		平成28年度	平成29年度	平成30年度中間値	平成30年度	平成31年度
プロジェクトのうち、成果のあった事業(販売実績等のあった事業)	目標値	2	2	2	2	2
	実績	1	1	1	1	—
V 事中評価						
評価視点	妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等	事業の方向	現状のまま維持する				
媛っこ地鶏については、市内飲食店を中心として販売しているが、販路拡大が今後の課題である。営業も継続しているが新規販路の獲得には至っていない。朝鮮人参は試行錯誤を繰り返しながら栽培を継続しているが、獣害(ネズミ?)等により販売には至っていない。サトウカエダについては樹液採取(メープルシロップ)に向けて圃地の管理(除草、施肥等)を行っている。						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)	予算の方向	現状維持				
新しい別子山地域のブランド開発に向けて取り組んでいるが、樹液採取、朝鮮人参等は成果獲得に一定期間を要するものと考えられる。現状を維持し、引き続き地域の活性化を支援する。						
VI 事後評価						
成果	総合評価(平成30年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
媛っこ地鶏の販路については、取引量が小規模ではあるが、市内飲食店で新規の顧客も獲得している。新年度はふるさと納税の返礼品に取り組む事としており、今後の知名度アップに期待したい。朝鮮人参は今年度から簡易ハウスを設置して、一苗ずつのポット栽培に取り組んでおり、生産性の向上を期待したい。						
事中評価	作成担当者	近藤 尚志	最終評価責任者	和田 隆宏		
事後評価	作成担当者	近藤 尚志	最終評価責任者	和田 隆宏		